

完了後の評価個表

整理番号	5 - 1
------	-------

事業名	(林業地域基盤整備事業) 森林居住環境整備事業	都道府県	山梨県
ふりがな 地域(地区)名	すだま 須玉地区	事業実施主体	山梨県、北杜市(旧須玉町)
関係市町村	北杜市(旧須玉町)	管理主体	山梨県、北杜市(旧須玉町)
事業実施期間	H13 ~ H18 (6年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	① 位置等 北杜市は、山梨県の北西部に位置し、南アルプス東部の甲斐駒ヶ岳及びハケ岳の山麓に開けた地域である。標高は釜無川沿いの低地から3,000m級の急峻な山岳地帯まで幅広く、気候は昼夜・季節間ともに寒暖の差が大きく、年間降水量が比較的に少ない内陸型を示している。 ② 森林の状況 当地区の森林面積は14,820ha(地区の85%)で、そのうちの68%にあたる10,062haが県有林である。人天別では、カラマツを主体とした人工林が6,969haで、約47%を占めている。 また、地区内の森林のうち、水源涵養保安林が13,765ha、土砂流出防備保安林が266haに指定されており、森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の効果的な実施が期待されている。 ③ 当地区を整備する目的・意義 当地区の人工林は、8齢級(40年生)を中心とする林分に分布が集中しており、水源涵養機能はもとより、木材生産機能の充実を図るための適切な森林整備が求められている。 しかしながら、当地区内には森林整備の基盤となる林道が未整備な箇所が多く、森林整備の推進に支障を来していたため、林業生産基盤の整備や森林の公益的機能の高度発揮等を目的として、森林基幹道と森林管理道の開設を行ったものである。 北杜市須玉町のみずがき山麓では、平成13年5月20日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「伝えたい、森のやさしさ、あたたかさ」をテーマに第52回全国植樹祭が開催された。この会場跡地を全国植樹祭開催以後も人々が身近に自然と触れ合える施設として整備すべく、県・北杜市両者が一体となってフォレストアメンティ施設整備事業を導入し、公園・キャンプ場・歩道整備を実施した。 また、フォレストアメンティ施設の整備と合わせ、間伐等の遅れがみられた当地域の水源涵養機能の向上を図るため、当事業において森林整備を実施した。 (事業概要) 居住地森林環境整備 みずがきの森 間伐 53.7ha 森林基幹道整備 ①前山大明神線 車道幅員 4.0m 開設延長 740m 利用区域面積 1,079ha ②横尾山 車道幅員 4.0m 開設延長 3,184m 利用区域面積 1,205ha 森林管理道整備 ①金ヶ岳線 車道幅員 4.0m 開設延長 5,650m 利用区域面積 651ha ②つくえ線 車道幅員 4.0m 開設延長 1,033m 利用区域面積 42ha フォレストアメンティ施設整備 ①みずがきの森 メモリアルパーク 修景施設(植栽) ②みずがきの森 フォレストフラワー公園 休憩施設等(野鳥観察小屋等) ③みずがきの森 キャンプ場 ④みずがきの森 歩道 1,450m 総事業費 2,012,378 千円 (当初総事業費 1,900,000 千円)
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	平成24年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業採択時に比べ、完了後の評価時点での費用対効果の分析値が高くなった要因は、フォレストアメンティ施設の入込者数が、当初見込んでいたよりも多くなったためである。 総便益(B) 7,163,412 千円 (事業採択時 2,935,635 千円) 総費用(C) 3,269,434 千円 (事業採択時 1,751,751 千円) 分析結果(B/C) 2.19 (事業採択時 1.68)
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	① 林道の整備により各路線の利用区域内における平均到達距離は約300mとなり、森林施業地への到達時間の短縮及び施業コストの低減が図られ、これまでに総利用区域面積2,977haに対し、整備前の森林整備等の状況は5年間で225haに止まっていたが、整備後は主間伐115ha、その他保育138haなど、合計253haの森林整備等が実施されるなど、適切な森林整備の推進に寄与している。 ② フォレストアメニティ施設の整備により、全山花崗岩で形成された珍しい岩峰「みずがき山」の景観と相まって、本地区には県内外から年間3万人もの観光客が訪れるようになり、キャンプ場・公園を利用するようになった。当事業完了後、公園内に市が設置した管理棟では、地元の特産品販売も行われ、祝祭日には多くの人々で賑わいを見せている。 歩道整備により、名瀑「不動の滝」に誰もが容易に訪れることが出来るようになり、好評を得ている。 ③ 「みずがきの森」森林整備により、健全な森林が育成され、森林の持つ公益的機能の向上が図られた。
③ 事業により整備された施設の管理状況	① 当事業により開設された林道は、県及び北杜市が定めた林道維持管理要綱に基づき適切に管理されている。 また、側溝清掃や草刈等の作業を毎年実施しており、維持管理は良好である。 ② 当事業により整備されたフォレストアメニティ施設のうち、北杜市が整備したものについては、市が選定した指定管理者によって適切に管理されている。県が整備したフォレストアメニティ施設についても、植栽木の管理等、通年を通して維持管理事業を実施し、適切に管理されている。 ③ 当事業により整備された森林は県が適正に管理している。
④ 事業実施による環境の変化	当事業により整備された林道の利用区域内の森林は、間伐を主体とした森林整備が効果的に実施されており、健全な森林が育成されている。 また、フォレストアメニティ施設が整備されたことにより、武田信玄の隠し湯として知られる増富温泉郷や本谷川溪谷と合わせた周遊型観光ルートが形成され、県内外を問わず多くの観光客や登山者などが当地域を訪れるようになった。
⑤ 社会経済情勢の変化	当事業により各路線の整備を行った結果、各路線とも利用区域の5～10%の森林で間伐を主体とした森林整備が効果的に実施されている。 また、フォレストアメニティ施設の整備により、当地域をはじめ、峡北圏域を訪れる観光客が整備前に比べ25%増加し、地域全体に経済波及効果があった。
⑥ 今後の課題等	森林整備を効率的に行うための基盤整備がなされ、森林所有者の林業に対する意識向上が見られ、林道沿線から優先して積極的に作業が行われている。引き続き、適切な森林整備を行うため、今後は作業道等の整備を精力的に進めて行くことが必要である。 また、フォレストアメニティ施設については、設置後10年を経過し、木造施設の老朽化等が懸念されることから、施設維持等更なる措置が必要になってくる。 ・ 地元の意見： 森林基幹道、森林管理道の整備を行ったことで、林業関係者の通勤時間の短縮や間伐材の搬出、更には一般利用者の利便性の向上に寄与している。（山梨県） 林道の開設により、森林への到達時間が大幅に短縮されたため、森林所有者の森林に対する意欲が向上し、森林整備が効果的に行われるようになった。また、地域一帯を周遊する観光ルートができ、地域振興につながった。（北杜市） 施設整備等によって、観光客や登山者が増え、都会と山村地域住民の交流が図られるようになった。（北杜市須玉町増富・黒森地区住民）
評価結果	・ 必要性： 地元の意見にも見られるとおり、林道の整備による適切な森林整備の実施、水源涵養機能等の公益的機能の発揮や、山村と都市との共生・交流を図ることができる施設整備が求められていたことから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 計画に当たっては、現地の条件に応じた工種・工法で実施しており、事業実施に当たっても現地発生の木材を利用するなどのコスト縮減に努めており、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道整備により森林へのアクセスが容易となり、森林整備のコスト縮減により森林整備が促進され、今後も効果の発現が見込まれる。 また、フォレストアメニティ施設の整備により雇用創出や、都市と山村地域住民との交流など地域振興も図られていることから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名:森林居住環境整備事業

都道府県名:山梨県

地域(地区)名: ^{すだま}須玉

(単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	140,381	
	流域貯水便益	24,266	
	水質浄化便益	51,377	
山地保全便益	土砂流出防止便益	133,753	
	土砂崩壊防止便益	1,304	
環境保全便益	炭素固定便益	111,227	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	42,268	
	木材利用増進便益	55,433	
	木材生産確保・増進便益	144,894	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	1,450,841	
	治山経費縮減便益	516,976	
	森林管理等経費縮減便益	54,045	
	森林整備促進便益	839,848	
森林の総合利用便益	フォレストアメニティ施設利用便益	3,596,799	
総 便 益 (B)		7,163,412	
総 費 用 (C)		3,269,434	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,163,412}{3,269,434} = 2.19$		